

学力向上フロンティアスクール中間報告

都道府県名	愛媛県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	新居浜市立若宮小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1		6	9
児童数	14	12	8	13	12	7		66	

研究の概要

1. 研究主題

意欲的に考え、自分の思いを生き生きと表現する児童の育成

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・ 6年生・国語 学校として、当該教科に関する研究実績があるため

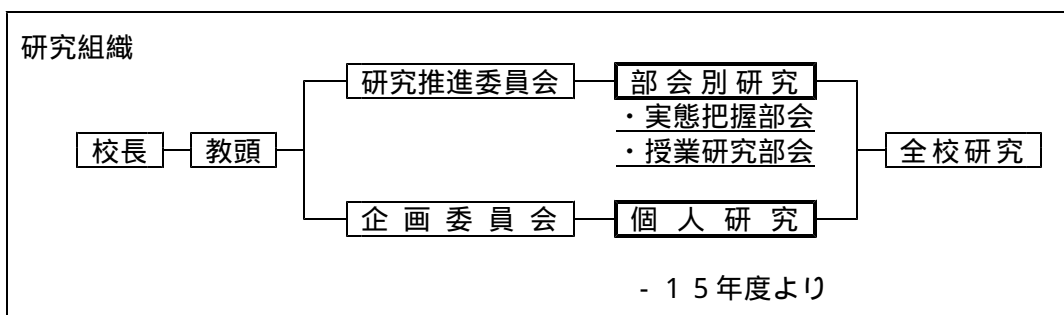
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 意欲的に考え、自分の思いを生き生きと表現する児童の育成 研究の見通し（仮説） 本校では、学力を「生涯にわたって学び続けていくための基礎・基本となる力」ととらえている。その中の狭い意味での学力として、「教科の基礎的・基本的知識、技能」と学ぶ意欲や問題解決のための思考力や判断力、自己表現力や学習の仕方などの「学ぶ力」と考えている。そこで、少人数であるという本校の特色を生かし、一人一人に応じた繰り返し学習や児童一人一人の思いや願いを大切にされた問題解決的な学習を進めたり、指導のねらいを明確にし、児童の実態に応じた多様な学習を展開したりすることにより、基礎的・基本的内容の定着と学ぶ力が身につく、自分の思いを生き生きと表現することができるであろうと考える。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>ア 基礎・基本の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的・基本的な内容の定着を図り、わかる授業の展開 <p>イ 表現力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的・問題解決的な活動の重視 ・ 朝の活動の工夫 <p>ウ 個に応じた指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個に応じた教材構成等の工夫 ・ 指導と評価の一体化 ・ 児童の実態調査及び保護者の意識調査
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 意欲的に考え、自分の思いを生き生きと表現する児童の育成研究の見通し</p> <p>平成14年度と同じ</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>ア 基礎・基本の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的・基本的内容の定着を図り、わかる授業の展開 <p>イ 表現力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的・問題解決的な活動の重視 ・ 朝の活動の工夫 <p>ウ 個に応じた指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個に応じた教材構成等の工夫 ・ 指導と評価の一体化 ・ 児童の実態調査や保護者の意識調査に基づいた具体的方策の検討・実践
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 意欲的に考え、自分の思いを生き生きと表現する児童の育成研究の見通し</p> <p>平成14年度と同じ</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>ア 基礎・基本の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的・基本的内容の定着を図り、わかる授業の展開 ・ 学力定着をめざす家庭学習の工夫 <p>イ 表現力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的・問題解決的な活動の重視 ・ 朝の活動や集会活動の工夫 <p>ウ 個に応じた指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個に応じた教材構成等の工夫 ・ 発展的な学習や補充的な学習の研究・実践 ・ 評価規準・評価基準の明確化 <p>エ 研究のまとめ</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・ 朝の活動の時間に「作文タイム」(月曜日)を設定したことにより、文(文字)を書くことに対する抵抗感が少なくなってきた。また、作文を書く時に気をつけること(文末表現をそろえること、既習の漢字を使うこと、指示語・接続語の使用など)を意識しながら文を作ることができるようになってきた。
- ・ 各学年ごとに一週間に一時間程度「読書の時間」を設定することにより、児童一人一人が本に親しむ機会が増え、読書量及び内容が充実してきた。(一万ページ読破児童(1月末現在)全校児童の約2/3、6万ページを超えている児童もいる。)
- ・ 単元全体を見通した指導計画に評価・育てたい力を明記したり、指導案づくりなどに全教員が参加(6年生が説明文教材で授業を行う 各学年ごとに説明文教材の指導案を作成したものを持ち寄り)したりすることにより、授業に対する教師一人一人の意識改革や本校学力の捉え方についての共通理解が図られ、授業改善につながった。
- ・ 学力テストの結果及び保護者の意識調査を分析することにより、本校児童に劣っている能力(「書く能力」「読む能力」)や保護者の願い(「自分の思いや考えを文章や言葉で表現する能力」を身に付けさせて欲しい)が明確になり、指導と評価の一体化が図られた。

2. 今後の課題

- ・ 自分の思いや考えをまとめて文章で表現することはできるようになってきたが、言葉(話す)や動作で即座に表現することはできにくい。また、聞く(相手の話を理解する)能力の育成にも努める必要がある。
- ・ 各クラス少人数なので、多様な考えを出し、練り合う場の設定に努めていきたい。

学力等把握のための学校としての取組

定期的な学力テスト(国語・算数)の実施(年1回・2月)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

協議会名	日時	場所	対象
第1回地区協議会	平成15年10月10日	新居浜市立若宮小学校	地区協議会会員 新居浜市内の小・中学校 各校1名以上の教員
第2回地区協議会	平成15年12月10日	新居浜市立西中学校	地区協議会会員 新居浜市内の小・中学校 各校1名以上の教員
第3回地区協議会	平成16年 1月27日	新居浜市立惣開小学校	地区協議会会員 新居浜市内の小・中学校 各校1名以上の教員

- (1) 新居浜市内の小・中学校には、公開授業の案内を行い、各学校の授業実践の参考とする。
- (2) フロンティアスクール以外の学校代表者は、各市町村で行われる研究会や教科会等で、地区協議会での協議内容を報告する。

